

平成28年度冬季休業明け集会（始業式）（H29. 1. 6）

- こうして生徒諸君と先生方と共に新しい年を迎えることができたことを、文字どおり有り難く、大変嬉しく思う。

陰暦1月の異称である睦月の由来には、稲の実を初めて水に浸す月で「実月（むつき）」が転じたとする説や、（校歌の「嫩草萌ゆる」）つまり草木が萌え出る「萌月（もゆつき）」など諸説があるが、有力なのは、親族一同が集い宴をする「睦び月（むつびつき）」の意であるとするもの。

- 平成29(2017)年が動き出した。平成29(2017)年は

34 ^{ていゆう}丁酉（ひのととり）、^{へいしん}去年は、33 丙申（ひのえさる）

△ 十干十二支 ① ^{かつし}甲子（きのえね）～ ^{へいご}43 丙午（ひのえうま）～ ^{きがい}60 癸亥（みずのとい）
甲子園 *

* 丙午年の生まれの女性は気性が激しく夫の命を縮める、という迷信がある。これは、江戸初期の「丙午の年には火災が多い」という迷信が、八百屋お七(*)が丙午の生まれだとされたことから、女性の結婚に関する迷信に変化して広まって行ったとされる。

(*) 八百屋お七寛文8年(1668年)?-天和3年3月28日(1683年4月24日)諸説あり)

～恋人に会いたい一心で放火未遂、火刑に処せらる。西鶴「好色五人女」に取上げ。

○ 乙巳（へび）昭和40(1965)年生まれ 約182万人

51歳 ▲ 丙午（うま）昭和41(1966)年生まれ 約136万人 △25%

○ 丁未（ひつじ）昭和42(1967)年生まれ 約194万人 +42%

▲ 次の丙午（うま）(2026)年生まれ 約???万人（総務省HPより）

3年生 平成10(1998)年生まれ→28歳の年

2年生 平成11(1999)年生まれ→27歳の年

1年生 平成12(2000)年生まれ→26歳の年

今年の新成人人口（平成8年生まれ、平成29年1月1日現在20歳の人口）は123万人で、前年と比べると2万人の増加。男性は63万人、女性は60万人、男性が女性より3万人多く、女性100人に対する男性の数（人口性比）は105.8。

因みに、

- △ 陰陽五行では、十干の丁は陰の火、十二支の酉は陰の金で、相剋（火剋金）。どのような年かを占う手がかりの一つとして、還暦60年前を見ることも。

60年前の昭和32(1957)年 2月3日久

- ・ 神武景気と岩戸景気の間、経済的には微妙な時期。
- ・ 新5000円札、100円硬貨が発行されたのもこの年。
- ・ 東京が851万(H28=1365万)の人口となり、ロンドンを抜き世界一。
- ・ 8月27日茨城県東海村の原子力研究所で原子炉が臨界点に、「原子の火」が灯る
- ・ 当時のソ連が世界初の人工衛星打ち上げに成功（スプートニク1号とライカ犬クドリャフカを乗せた2号）

ガガーリンによる有人飛行は、更に4年先の昭和36(1961)年

- ・ トヨタはアメリカへの自動車の輸出を開始。日産はスポーツカーを発売。

以上、宇宙開発や企業の海外展開など、発展的な動きの多い年、基本的に拡大成長路線だったと言える。

大震災から6年が経過するが、福島県も昨年からの5年間を「復興・創生期間」と位置づけている。ex. 県立医大、浜のドローン研究拠点・・・

- センター試験まで、今日を入れずに7日間。密度の濃い7日間に。
3年生、1／4・5と登校して勉強している生徒、各クラス3～5人、
生徒諸君の目の光に力を感じた。
明日7～8センター試験トレーニングを本番と同じ時間割で実施
130期生の健闘を信じている

1・2年生も、1・2年後には……。何度も話しているが、目標が少しでも早く固まり、それに向かって一日でも早くスタートできれば、必ず目標に到達できる。

- ・ 自分自身を信じて、今できることを一つずつこなしていく、この繰り返し
- ・ 目指す大学のキャンパスで学んでいる姿をイメージして、
自分自身を信じ切ること、これに尽きる。
そして、それを支える「健康な体」＜インフル、ノロウィルス、注意＞

冬休み前に紹介した「念ずれば花ひらく」

- 安積の吉田 彌校長先生（S63～H元）が、いつも口にした言葉

「念ずれば花ひらく」（坂村真民作）

念ずれば
花ひらく
苦しいとき
母がいつも口にしていた
このことばを
わたしもいつのころからか
となえるようになった
そうして／そのたび
わたしの花が
ふしぎと
ひとつ／ひとつ
ひらいていった

（102河口 103 富樫・石渕・近藤

104 105 染谷）

坂村真民（さかむら・しんみん）
1909（明治42）熊本生まれ
25歳で朝鮮に渡り教職に
戦後は四国へ
最初短歌、41歳で詩に転ずる
詩集「二度とない人生だから」
「念ずれば花ひらく」
何事も一所懸命念ずるように
努力すれば、おのずから道は開ける

「万葉集」中で最も新しい歌とされる大伴家持の歌で私の話を閉じる。

新(あらた)しき年の始めの初春の

今日降る雪のいや重(し)け吉事(よごと)

新しい年の初め、初春の今日降る雪のように、良い事もたくさん積もれ

センター試験1月中旬は不思議と雪が降る。今年も雪が降っていたら、
この歌を思い出して「積み重ねた自分の努力は、必ず良いことに形を変えて
どんどん重なっていく」そう考えて「いや重(し)け吉事(よごと)」と何度も
唱えてください。

▲ 明治39(1906)年生まれ

明治時代以降もこの迷信は続き、1906年の丙午では、前年より出生数が約4%減少した。生まれた女兒の出生届を前後の年にずらして届け出ることもあったという。この年に生まれた小説家坂口安吾は、本名は丙午を意味する炳五という名を付けられ、親類から「男に生まれて良かった」と言われたという話を文章に残している。

この1906年生まれ的女性が結婚適齢期となる1924年（大正13年）頃からは迷信を否定する談話や、縁談が破談となった女性の自殺の報道などが相次ぎ、丙午生まれの迷信が女性の結婚に影響したことが伺われる。夏目漱石は1907年に発表した小説『虞美人草』において、主人公の男を惑わす悪女、藤尾を『藤尾は丙午である』と表現している。

▲ 昭和41(1966)年生まれ

丙午の年に当たる1966年の出生率が極端に低くなっている。

この迷信は昭和になっても依然根強く、1966年の出生率は前年に比べて25%下がった。子供をもうけるのを避けたり、妊娠中絶を行った夫婦が地方や農村部を中心に多く、出生数は136万974人と他の年に比べて極端に少なくなった。一方で前年および翌年の出生数は増加している。なお、出生数が1966年を下回るのは本格的な少子化時代に入った1989年以降である。

1966年に生まれた子供は少なかったことから、この学年度（翌1967年の早生まれを含む）の高校受験、大学受験が他の年より容易だったのかについては当時からしばしば論じられた話題であったが、大学一般の入学率については有意な差がみられないものの、国公立大学への進学率は1985年に上昇した。またこの年の子供は第一子（初めての子供）率が50.9%で統計史上過去最多であった。